

支部便り

軽金属学会東海支部2023年度総会および講演会 Tokai branch of the Japan Institute of Light Metals 2023 branch annual meeting and plenary lecture

小橋 眞¹・小林 正和²・栗田 洋敬³Makoto KOBASHI¹, Masakazu KOBAYASHI² and Hiroataka KURITA³

2023年5月10日（水）に名古屋駅前イノベーションハブ会議室（ウインクあいち15階）にて、2023年度東海支部総会および講演会を実施した。コロナ感染症に対する種々の規制が緩和されたことを受けて、2023年度の東海支部総会は対面にて開催した。また、コロナ禍に経験を積んだオンライン会議も併用するハイブリッド形式で実施した。

支部総会では、2022年度軽金属学会企業奨励賞を受賞した株式会社成田製作所の沿革・表彰理由を紹介し、代表取締役社長 成田 秀一氏に賞状盾を授与した（図1）。引き続き、成田氏からご挨拶いただいた。

講演会は、「カーボンニュートラルに向けたエネルギー関連研究の動向」と題したテーマを設定し、2名の講師をお招きして、最新の情報を講義していただいた（図2）。

講演1「カーボンニュートラルに向けたエネルギーイノベーション」

新エネルギー・産業技術総合開発機構
技術戦略研究センター サステナブルエネルギーユニット
ユニット長 仁木 栄先生

カーボンニュートラルに向けた国内外の動向やNEDOの活動基軸となる総合指針を紹介するとともに、カーボンニュートラルを実現するために不可欠な技術革新について講演いただき、会場での参加者との議論を行った。

講演2「再生可能エネルギーとしての太陽光の活用：太陽電池と光電極」

豊橋技術科学大学 シニア研究員・奈良工業高等専門学校
研究員 伊崎 昌伸先生

太陽光は代表的な再生可能エネルギーであり、半導体の光電変換機能を活用して、太陽電池として電力を、また光電極として水から水素や酸素ガスを生成できる。太陽電池や光電極に用いられる半導体材料と素子構造の研究開発動向について概説していただき、議論を行った。

会場における議論は活発であり、特に学生からの質問が目立った。オンラインより対面の方が議論の活性化には良いように感じた。

前述のようにハイブリッド形式で実施をしたため、もっとも配慮した点は、会場の音声をオンライン参加者に明瞭に伝えることであった。この点は、ハンドマイクを用いたスピーカーシステムを用いたことにより、問題がなかったと思う。ただしカメラアングルの改善が必要であった。講演会を想定



図1 企業奨励賞授与式
(写真右 株式会社成田製作所 成田秀一 社長)



図2 仁木先生（上）、伊崎先生（下）と参加者とのディスカッションの様子

して参加者と講演者の全体映像が1つのカメラにおさまるようにしていた（図2のディスプレイ下の広角カメラで講演者と参加者を映した）が、図1をご覧いただければわかるように、表彰式では異なる角度からの映像が必要であった。次回以降はカメラを2か所以上に配置する配慮が必要であるなど、ハイブリッド形式を実際に経験するまで気付かなかった点があった。他支部でも参考なるかと思い、記述をした。最後に講演会終了後は懇親会も開催した。学生会員から顧問諸氏までが集い、東海支部としては3年ぶりの懇親会を楽しんだ。

¹ 東海支部支部長、名古屋大学（〒464-8603 愛知県名古屋千種区不老町）

² 東海支部 担当支部理事、豊橋技術科学大学（豊橋市）

³ 東海支部 担当支部理事、ヤマハ発動機株式会社（磐田市）

受付日：2023年6月22日